

新型コロナウイルス感染症の影響について

※令和3年12月10日 第2回病院運営計画推進委員会 資料から抜粋

- 感染拡大期には、府内でも病床不足、手術の延期、救急搬送の制限等で医療崩壊が指摘されるなど、地域で効率的・効果的に医療提供できなかったことから、コロナ収束後、医療機能の分化と連携は、さらに強く求められる可能性がある。地域の中核病院として急性期医療を提供する当院には、地域医療提供体制維持の点から、感染拡大期においても、延期できない手術や救急患者の受入れの継続が特に求められる。
- 患者の受診抑制、オンライン診療の拡大による受療意識の変化等を踏まえると、コロナ前と同じ医療環境に戻るの難しいと想定される。患者数減などの変化を見据え、補助金に依存しないことはもとより、安定した病院経営についてさらなる検討が必要。



- ・新興感染症に対応した医療提供体制（ソフト・ハード）の強化
- ・感染拡大期における政策医療等の継続
- ・コロナ収束後の社会を見据えた病院経営の検討

<新型コロナウイルス感染症対応における当院の主な状況>

(1) 医療物資の不足

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、手指消毒液、医療用マスク、医療用ガウン、フェイスガードなどの医療物資の入手が困難になった。

(2) 迅速な病床再編

新型コロナウイルス感染動向にあわせて、速やかな感染症用病床の再編が求められた。しかし、一般患者の受入制限や看護師の確保等の調整のため、病床確保までに一定期間を要した。

(3) 医療スタッフの不足

感染拡大期には、職員が陽性になる、職員が濃厚接触者になるなどで勤務できる職員が減少し、業務継続が困難になった。

(4) メンタル対策

感染症対応による心理的・身体的負担等で体調不良を訴える職員への対応が求められた。

(5) 施設の感染症対策（診察室、感染症病棟など）

1階感染症病棟が十分に機能しなかった、陰圧室の不足、新型コロナウイルス患者の動線確保が不十分など、感染対策における施設上の課題が明らかになった。

(6) 委託業務

感染症病棟に関わる業務（清掃、シーツ処理など）の委託が困難になった。

(7) 病院経営の悪化

①病院の経営悪化の主な要因

(a) 感染リスク軽減のための診療等の抑制（不急診察の延期、面会の制限）

不特定多数の人の出入りにより、新型コロナウイルスが院内に持ち込まれること、一般患者が院内で感染することなどを防止するため、外来診療などを抑制した。

(b) 感染対応によるマンパワー不足のため入院診療・救急搬送受入れを制限

新型コロナウイルス患者対応の増員によるマンパワー不足により、入院診療や救急搬送の受入れを制限せざるを得なかった。

(c) 感染を恐れて患者が病院へ行かなくなっている

不特定多数の人が来院する病院に行くことで、新型コロナウイルス感染者と接触する危険性等を心配して受診を控えている。

②運営状況

	令和元年度	令和2年度	増減	令和3年9月末現在
新規入院患者数	15,875人	11,833人	▲4,042人	6,450人
入院延患者数	180,704人	138,064人	▲42,640人	72,088人
外来延患者数	289,639人	241,245人	▲48,394人	127,560人
一般病床利用率	83.0%	63.6%	▲19.4%	66.3%
平均在院日数	10.4日	10.7日	0.3日	10.3日
全手術件数	5,269件	4,133件	▲1,136件	2,164件
救急車搬送受入数	6,106人	3,776人	▲2,330人	2,668人
救急科からの入院患者数	5,176人	3,242人	▲1,934人	1,898人
入院診療単価	64,541円	70,119円	5,578円	73,224円
外来診療単価	18,229円	19,137円	908円	19,245円
紹介率	77.3%	77.8%	0.5%	77.7%
逆紹介率	78.2%	84.5%	6.3%	78.9%
経常収支比率	95.9%	103.8%	7.9%	
医業収支比率	92.1%	80.2%	▲11.9%	

◎令和2年度は、多くの項目で令和元年度の実績を下回った。

③財務状況

(単位：百万円)

	令和元年度	令和2年度	増減	令和3年度見込み
①病院事業収益	19,443	20,493	1,050	20,557
医業収益	17,754	15,009	▲2,745	16,055
入院収益	11,663	9,681	▲1,982	10,462
外来収益	5,280	4,617	▲663	4,840
室料差額収益	256	174	▲82	188
他会計負担金	433	443	10	443
医業外収益	1,689	5,484	3,795	4,502
他会計負担金・補助金	933	970	37	882
国・府補助金	74	3,894	3,820	2,994
長期前受金戻入	484	479	▲5	491
②病院事業費用	20,193	19,651	▲542	20,580
医業費用	19,941	19,409	▲532	20,354
給与費	9,838	9,999	161	10,133
材料費	5,496	4,828	▲668	5,368
経費	3,165	3,244	79	3,454
減価償却費	1,375	1,241	▲134	1,300
資産減耗費	9	65	56	55
医業外費用	252	242	▲10	226
支払利息等	213	184	▲29	176
③資本勘定消費税等	88	101	13	95
当年度純利益 (①-②-③)	▲838	741	1,579	▲118

◎令和2年度の医業収益は、患者数減少により入院・外来収益ともに減少。

◎令和2年度の医業外収益は、国や大阪府による空床補償や機器整備の補助金等により増加。

◎上記の結果、令和2年度は黒字決算。